

# 小学校の基本的生活習慣に係る調査研究

～仙台市公立小学校の生徒指導事例を通して～

## Basic Daily Living Habits at an Elementary School

Student guidance of a Municipal Elementary School in Sendai

キーワード：生徒指導，基本的生活習慣

Key word : Student guidance, Basic Daily Living Habits

熊谷和彦

### 要 約

「習慣は第二の天性なり」と言われる。社会的自立に向けて大切な初等教育の時期に生活習慣づくりを推進することは極めて重要である。しかし、生活習慣の乱れが授業への意欲の低下を招いたり、他者とのトラブルを生じさせたりするなど子どもの問題行動につながっているのではないかと指摘されている。

基本的生活習慣や生活規律などの確立は喫緊の課題なのである。

しかし、基本的生活習慣の指導や学習のしつけなどは、学校の生徒指導全体計画や共通事項を基に、教師個々に指導が任されている実態がある。

本稿では、学校の生徒指導全体計画や共通事項の実状とそこに内在する課題について探った。

### abstract

As is often said, “Habits are second nature.” It is extremely important to promote the development of basic daily living habits during the period of primary education to prepare students for future social independence. Indeed, it is pointed out that the failure to establish basic daily living habits leads to problematic behaviors such as reduced motivation to study in class and the interruption of other students.

The establishment of basic daily living habits and discipline is an urgent issue for schools. However, while generally based on the plans and rules in place at individual schools and shared experience among staff, the student guidance for basic daily living habits and discipline for study is, in fact, largely left to individual teachers.

This study was conducted to clarify and identify potential problems in the general plans of student guidance in place at individual schools and rules commonly shared among teachers.

### 1 はじめに

社会的自立に向けて大切な時期である初等教育の期間に生活習慣づくりを推進することは極めて重要である。「心が変われば態度が変わる 態度が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる 運命が変われば人生が変わる<sup>1</sup>」との箴言がある。生活習慣は行動の積み重ねであり人格を形づくるのである。

しかし、近年の子どもたちの育ちについては、基本的生活習慣や態度が身に付

いていない、他者との関わりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分育っていないなどの課題が指摘されている<sup>2</sup>。その背景として、家庭の教育力の低下を指摘する声もある。この点については、「家庭と連携して指導していくことが一部困難なところがある。」「見通しをもち、自ら考えて行動できるように指導することが難しい。家庭の事情が様々なので、基本的生活習慣に個人差が見られる。子どもの努力では難しい面がある。」などと、今回実施したアンケートの回答でも裏付けされているところである。

生活習慣の乱れから授業に身が入らず勉強についていけないことでさらに学習意欲の低下となったり、希薄な対人関係によりいじめや不登校等の他者とのトラブルが生じたりするなどさまざまな形をとりながら、小学校において「児童の荒れ」となって顕在化してきていると思われる調査もある<sup>3</sup>。

小学校における基本的生活習慣や生活規律などの確立は喫緊の課題なのである。

しかるにその基本的な生活習慣の指導や学習のしつけなどは、学校としての全体計画や共通事項を基に、教師個々に指導が任されているのが実態である。その全体計画や共通事項は、学校判断となっている。

そこで、本稿では、教師個々の指導の前提となっている学校としての全体計画や共通事項の現状について把握するとともにその課題について探っていく。

## 2 調査研究の目標

小学校における「基本的生活習慣」指導に係る教師の意識と生活目標との関連及び生徒指導全体計画と道德教育全体計画の関連を調査することにより生徒指導の課題を明らかにする。

## 3 調査研究の方法

### 1) 研究対象 仙台市立公立小学校

### 2) 研究方法

- (1) 小学校における基本的生活習慣に係る指導の実態について調査する。(アンケート)
- (2) 小学校における月別生活目標について調査する。
- (3) 小学校生徒指導全体計画における道德教育との関連について調査する。
- (4) 小学校道德全体計画における基本的生活習慣の取組について調査する。
- (5) 各調査内容を分析し、小学校における基本的生活習慣に係る指導の課題を探る。

## 4 調査研究の概要

### 4-1 基本的生活習慣とは

基本的生活習慣とは、「人間として最も基礎的かつ日常的な行動の在り方を、自然的、自動的に行為すること<sup>4</sup>」であり、「人間のあらゆる態度や行動の基礎になるものである<sup>5</sup>。」とされる。

それが個々に確立されていなければ、ときとして自分の生命や健康、安全を脅かすことすらある。また、基本的生活習慣が確立されていないことに起因する生

活態度の良し悪しは円滑な人間関係を阻害するばかりでなく、そのことが問題行動につながっていくなど、その後の社会生活を送る上で支障をきたすことにもなりかねない。

#### 4-2 学校で指導する基本的生活習慣

「近年、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、生活習慣の基礎が十分に培われないまま小学校へと入学するために、学校や行政機関などが、家庭の役割を担わなければならない状況が生起して<sup>6</sup>」いるとの指摘がある。

基本的生活習慣は、生徒指導提要（2010年文部科学省）によれば、

①人間の心身の発達や成長に関わる生活習慣の基礎となるもの  
（食事習慣、睡眠習慣、運動習慣、排泄習慣など）

②学校における基本的生活習慣  
に整理される。

そこに示されている基本的生活習慣に係る学校段階別の取組の視点<sup>7</sup>は、以下のとおりである。

表1 「学校段階別の取組の視点」

|       | 段 階 | 取組の視点                                                                                                                                     |
|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生活習慣  | 小学生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の影響が大きいことを踏まえ、日常生活を振り返り、見直す取組の充実</li> <li>・友だちや家族との対話を通して、生活習慣の課題をつかみ、改善意欲をもつ取組の充実</li> </ul> |
|       | 中学生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活について客観的に見つめ直す機会の充実</li> <li>・意見交換を通して、生活の具体的な改善策を考え、実践に努める態度を養う取組の充実</li> </ul>              |
|       | 高校生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な自立に向けて、自らの生活習慣を自分でつくる力を育成する取組の充実</li> <li>・生徒相互の支え合いにより、人間関係を深め、生活習慣の改善を図る取組の充実</li> </ul>    |
| 自己効力感 | 全段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動などを通して、達成体験や成功体験を積み重ねる取組の充実</li> <li>・自己理解、他者理解を通しての人間関係づくりの充実</li> </ul>                     |

「小学校段階においては、日常生活を振り返り、自らの生活を見直す取組の充実が必要であり、また、小学校への入学とともに、集団生活が始まることから、時間で区切られた規則正しい生活や授業規律、他者との関わりや集団生活のルールを守るなどの、学校生活における基本的生活習慣の基礎を身に付けることが必要<sup>8</sup>」である。

ところで、児童が習慣として身に付けるべき事柄は数多くある。その中でも、小学校で指導しなければならない最も基本と考えられる基本的生活習慣として、以下の項目が取り上げられている<sup>9</sup>。



表 2 「小学校における基本的生活習慣の指導」

| 項 目 |                     | 取り上げられている生活習慣        |
|-----|---------------------|----------------------|
| 1   | 生命尊重，健康安全に関すること     | (1) 身体や衣服の清潔         |
|     |                     | (2) 洗面，歯磨き           |
|     |                     | (3) 交通及びその他の安全       |
| 2   | 規則正しく，きまりよい生活に関すること | (1) 物，金銭の活用及び自他の物の区別 |
|     |                     | (2) 時間の尊重            |
|     |                     | (3) 身の回りの整理整頓        |
|     |                     | (4) 規則を守る            |
| 3   | 礼儀作法に関すること          | (1) あいさつ             |
|     |                     | (2) 言葉遣い             |
|     |                     | (3) 食事の作法            |
|     |                     | (4) 身だしなみ            |

#### 4－3 基本的生活習慣と学校における生活目標

生活目標は，一般に学校生活における児童の生活の「めあて」として設定される。それは，「各学校の教育目標や道徳教育重点目標を具現するものとして設定されるが，心の在り方に関する価値よりも基本的行動様式に関わる価値を掲げること」が多い。「あいさつをしたか」，「廊下を走らないという約束は守ることができたか」といった生活目標は，日常の児童の行動から数量化で評価し，繰り返しの指導も含め改善に生かすことが可能だからである。「生活目標の達成と基本的生活習慣の形成とは密接な関連があり，学校教育全般の中でも，生活目標の指導は基本的生活習慣形成の重要な機会<sup>10)</sup>」なのである。

#### 4－4 基本的生活習慣と道徳教育との関係

道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて行う。そこでは，主に道徳的実践の指導を行うことになる。基本的生活習慣の形成について言えば，「学校の教育活動の具体的な場面に即して，随所随所で，具体的な行為の指導を行う<sup>11)</sup>」こととなる。指導上の留意点として，「外面的な行動や習慣だけでなく，それを支える道徳的判断力や心情の指導も大切である。つまり，学校における基本的生活習慣の指導は，外側からの児童の行動の規制や，形式の指導にとどまらず，児童にその生活習慣の重要性を十分認識させ，自発的，自律的に生活習慣を形成する努力をするよう仕向けることが肝要<sup>12)</sup>」である。基本的生活習慣形成のための指導は道徳教育の指導計画に位置付けられなければならないのである。

以上のことから，本調査研究では各学校の生徒指導全体計画において，前述の項目がどのように位置付けられ，どのように指導されているかについて明らかにするために，「1 基本的生活習慣指導に係る教師の意識と生活目標との関連」「2 基本的生活習慣に係る生徒指導全体計画と道徳教育全体計画の関連」の2つの視点から仙台市内公立小学校の現状を調査研究・分析し考察を加えるとともに課題を把握したいと考えた。

#### 4-5 調査研究のねらい

本調査は、小学校における基本的生活習慣に関する次の4点についての実態を明らかにすることを目的とする。

- ① 教員が自校の子どもにとって課題であると思う基本的生活習慣の項目を把握すること。
- ② 基本的生活習慣に係る月別生活目標及び内容の状況を把握すること。
- ③ 生徒指導全体計画への道徳の位置付けを把握すること。
- ④ 道徳教育全体計画への基本的生活習慣の形成に係る指導の位置付けを把握すること。

##### 1) 調査研究の計画

基本的生活習慣に関する調査研究の計画は、以下のとおりである。

###### (1) 調査対象

- ・仙台南内公立小学校生徒指導担当者（教頭、校長等を含む）

###### (2) 調査依頼 仙台南内公立小学校 121 校

###### (3) 調査方法

- ①調査用紙及び依頼文を配布し、対象者が「学校における基本的生活習慣に係るアンケート」等に回答し、郵送。
- ② 各学校の「生徒指導全体計画」「月別目標」「道徳教育全体計画」の写しを郵送。

###### ③ 調査期間 平成 28 年 6 月 1 日～6 月 30 日

###### ④回収結果

調査回答についての回収者の内訳は、以下のとおりである。

- ・仙台南内 121 校へ配布し、61 校から回答。（回収率 50.4%）

調査回答についての回収結果は、以下のとおりである。

- ・生徒指導主任等の教育実践者 40 名
- ・校長：3 名、教頭：8 名、教務主任等：8 名 計 19 名
- ・未記入 2

※校長、教頭、教務主任等は便宜上「学校管理者」として位置付ける。

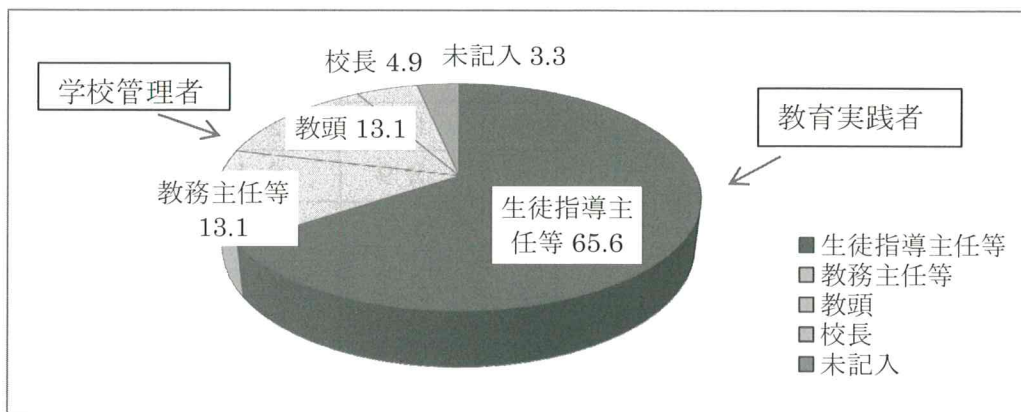


図1 アンケート「回答者の内訳」

##### 2) 学校における「基本的生活習慣」に係るアンケート調査結果の分析

表2「小学校における基本的生活習慣の指導」で示してある「学校で指導しな

ければならない最も基本と考えられる基本的生活習慣」の項目に対して、「目の前の児童に習慣として身に付いていないと思われる項目について」を尋ねた。  
結果は、図2のとおりである。

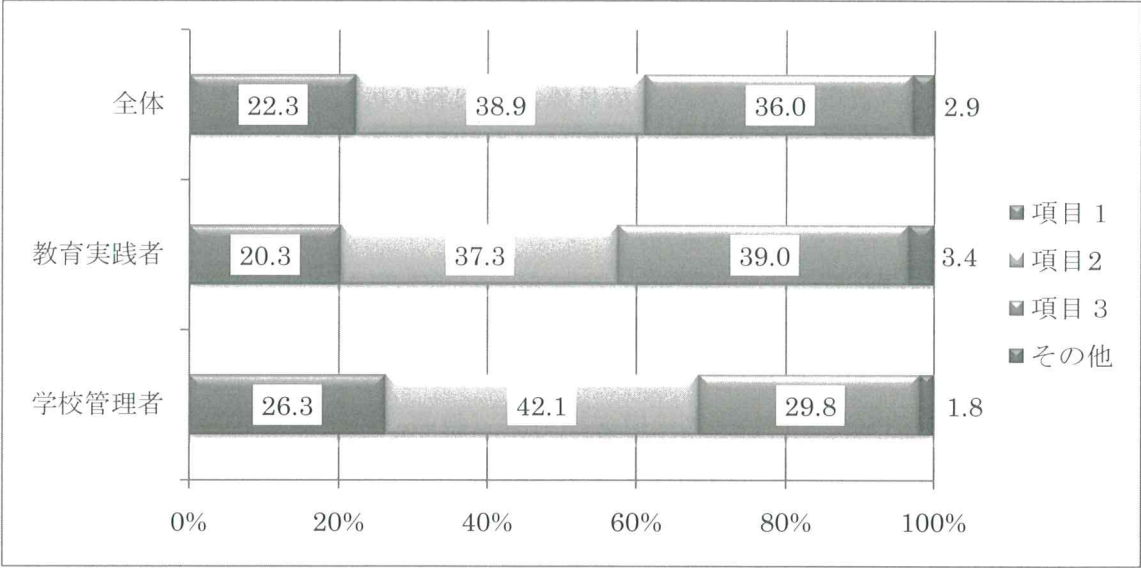


図2 学校における「基本的生活習慣」に係るアンケート調査結果

調査校へのアンケート調査で、目の前の子どもたちの課題であると回答した基本的な生活習慣の項目の総数は175であった。

回答者全体では、「項目1 生命尊重，健康安全に関すること」が22.3%，「項目2 規則正しく，きまりよい生活に関すること」が38.9%，「項目3 礼儀作法に関すること」が36.0%となっている。教育実践者と学校管理者の「項目3 礼儀作法に関すること」にやや開きがあった。

「回答された生活習慣」は、表3及び図3のとおりである。

表3 「項目別アンケート結果」

| 項 目 |                     |     | 全体  | 教育実践者 | 学校管理者 |
|-----|---------------------|-----|-----|-------|-------|
| 1   | 生命尊重，健康安全に関すること     | (1) | 4   | 1     | 3     |
|     |                     | (2) | 4   | 1     | 3     |
|     |                     | (3) | 3 1 | 2 2   | 9     |
|     |                     | 計   | 3 9 | 2 4   | 1 5   |
| 2   | 規則正しく，きまりよい生活に関すること | (1) | 1 2 | 6     | 6     |
|     |                     | (2) | 1 6 | 1 1   | 5     |
|     |                     | (3) | 1 5 | 1 2   | 3     |
|     |                     | (4) | 2 5 | 1 5   | 1 0   |
|     |                     | 計   | 6 8 | 4 4   | 2 4   |
| 3   | 礼儀作法に関すること          | (1) | 2 1 | 1 8   | 3     |
|     |                     | (2) | 2 3 | 1 3   | 1 0   |
|     |                     | (3) | 1 8 | 1 4   | 4     |
|     |                     | (4) | 1   | 1     | 0     |

|     |   |       |       |     |
|-----|---|-------|-------|-----|
|     | 計 | 6 3   | 4 6   | 1 7 |
| その他 |   | 5     | 4     | 1   |
| 合計  |   | 1 7 5 | 1 1 8 | 5 7 |

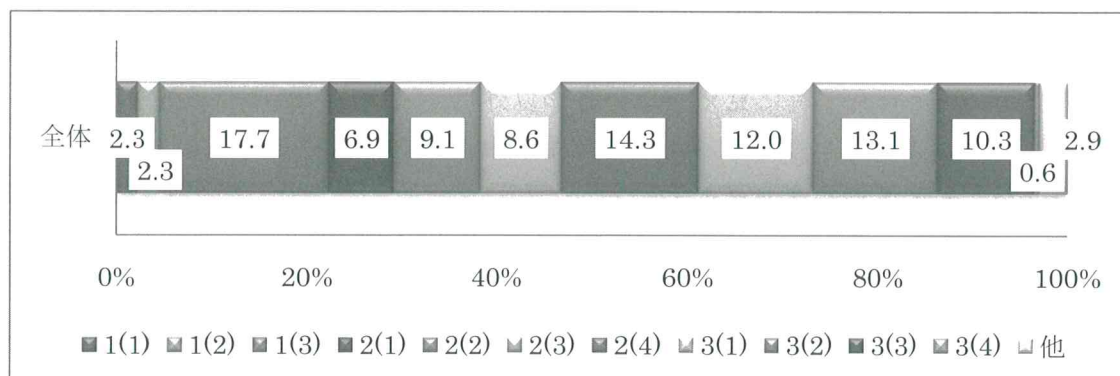


図3 「項目別アンケート結果」

課題と回答された内訳をみると、全体では割合が高い順に、「項目1（3）交通安全及びその他の安全」が31(17.7%)、「項目2（4）規則を守る」25(14.3%)、「項目3（2）言葉遣い」23(13.1%)、「項目3（1）あいさつ」21(12.0%)、「項目3（3）食事の作法」18(10.3%)である。

教育実践者と学校管理者との回答の比較は図4のとおりである。

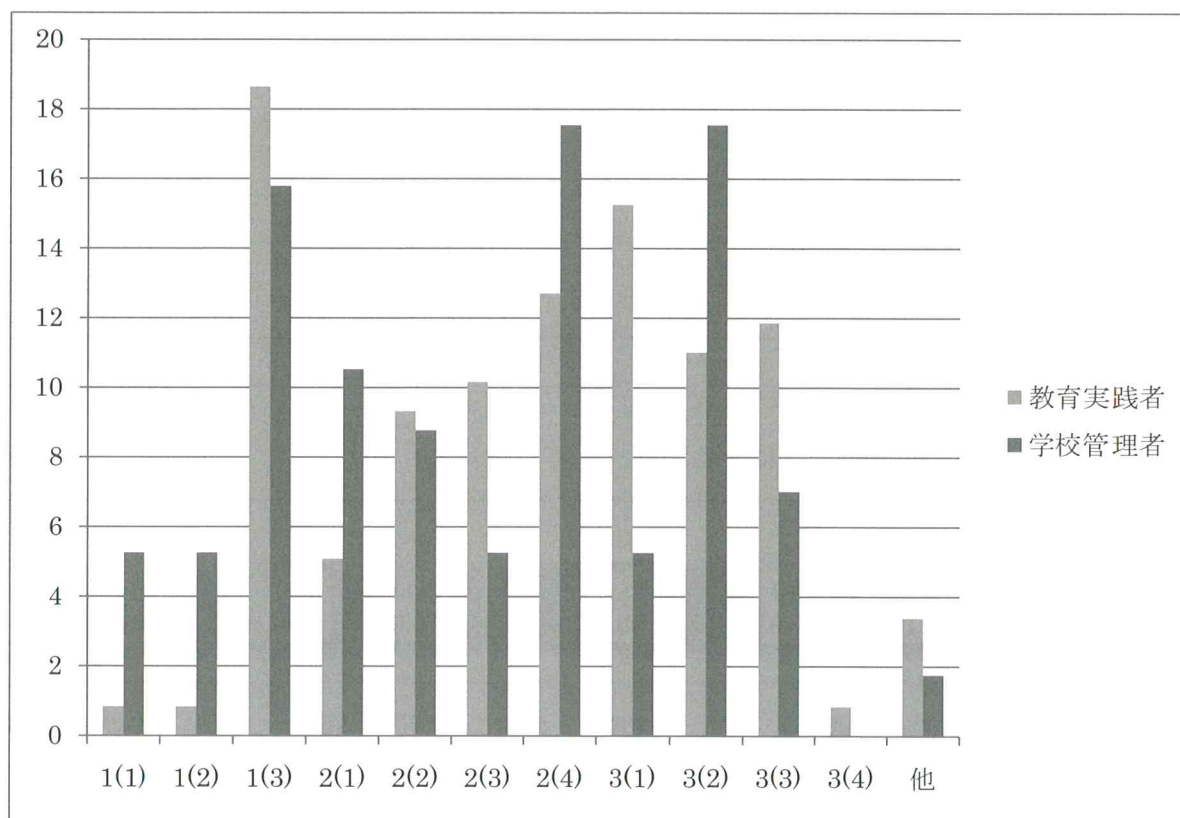


図4 教育実践者と学校管理者との回答を比較

図4をみると、学校管理者と生徒指導主任等の教育実践者では、回答内容に大



きな差は見られない。(有意差  $p < 0.1$ ) 子どもの基本的な生活習慣に関する情報が共有化されていることがうかがえる。

ただ、「項目 3 (1) あいさつ」に関してのみ、学校管理者 5.3 パーセント、生徒指導主任等の教育実践者 15.3%と解釈に乖離が見られた。担任として教室で子どもに接する教育実践者としては、朝や帰りの「おはようございます」「さようなら」といった日常で目に見えるあいさつ以外に、「ごめんなさい」「ありがとう」「どういたしまして」など教室内の子ども相互の関わり合いに係るあいさつに課題があると考えているように思われる。

### 3) 「月別生活目標」

学校生活における児童の生活の「めあて」として設定される各校の「月別生活目標」もアンケートとともに今回回収した。表 2 「小学校における基本的な生活習慣の指導」に照らして目標内容を分類した結果はおおよそ次のようであった。

表 4 各校の月別生活目標

| 月   | 項目 1 | 項目 2  | 項目 3  | その他   | 計     |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|
| 4   | 1    | 3 2   | 4 0   | 3     | 7 6   |
| 5   | 2    | 3 8   | 2 0   | 8     | 6 8   |
| 6   | 1    | 5 4   | 1 3   | 3     | 7 1   |
| 7   | 1    | 5 3   | 9     | 7     | 7 0   |
| 8・9 | 1    | 3 9   | 1 2   | 1 5   | 6 7   |
| 10  | 2    | 1 9   | 2 0   | 2 5   | 6 6   |
| 11  | 3    | 2 1   | 1 3   | 2 9   | 6 6   |
| 12  | 2    | 3 6   | 9     | 2 0   | 6 7   |
| 1   | 0    | 2 3   | 1 9   | 2 4   | 6 6   |
| 2   | 0    | 3 0   | 1 5   | 2 2   | 6 7   |
| 3   | 0    | 3 4   | 5     | 2 7   | 6 6   |
| 計   | 1 3  | 3 7 9 | 1 7 5 | 1 8 3 | 7 5 0 |

図に表すと、以下のようになる。

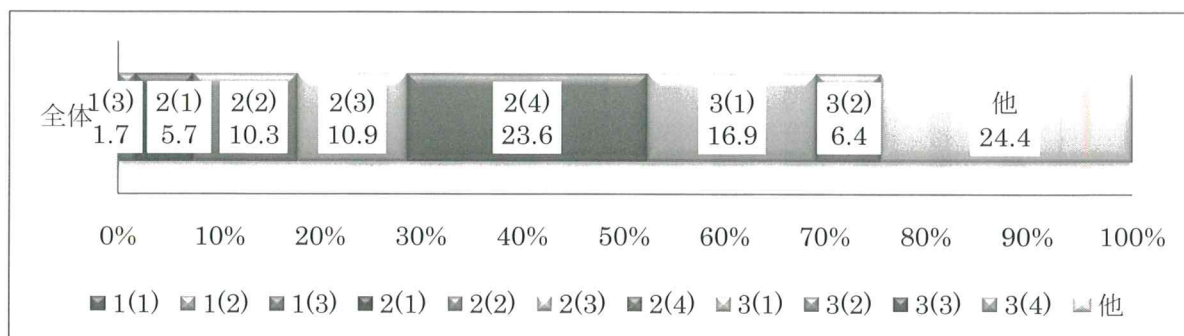


図 5 各校の月別生活目標の項目別割合

調査回答校が 1 年間で取り上げている生活習慣に関する月別目標は総数で 7



50である。

全体の内訳は、「項目1 生命尊重，健康安全に關すること」13（1.7%），「項目2 規則正しく，きまりよい生活に關すること」379（50.5%），「項目3 礼儀作法に關すること」175（23.3%），小学校における基本的生活習慣の指導の項目には直接含まれない内容（学校独自）として「その他」183（24.4%）という結果である。

項目別の内訳は，次のとおりである。

「項目1」のうち生活目標に取り上げられている生活習慣の内容は，（3）交通及びその他の安全のみである。（1）身体や衣服の清潔，（2）洗面，歯磨きをとりあげている学校はまったくない。

「項目2」に関しては，（1）物，金銭の活用及び自他の物の区別，（2）時間の尊重，（3）身の回りの整理整頓，（4）規則を守る のすべてが生活目標に取り上げられている。特に（4）規則を守るは，「項目2」の中で，48 パーセントを占めていた。

「項目3」に関しては，（1）あいさつと（2）言葉遣いの2つが取り上げられている。このうち，（1）あいさつは「項目3」の中で72 パーセントを占めていた。（3）食事の作法，（4）身だしなみを取り上げている学校はない。

「その他」として，「丈夫な体をつくる」「係（当番）活動をしかりする」「友達と仲良くする」「めあてをもつ」「話を最後まで聞く」など，個々の学校における児童の実態に応じたものとみられる内容の生活目標があった。

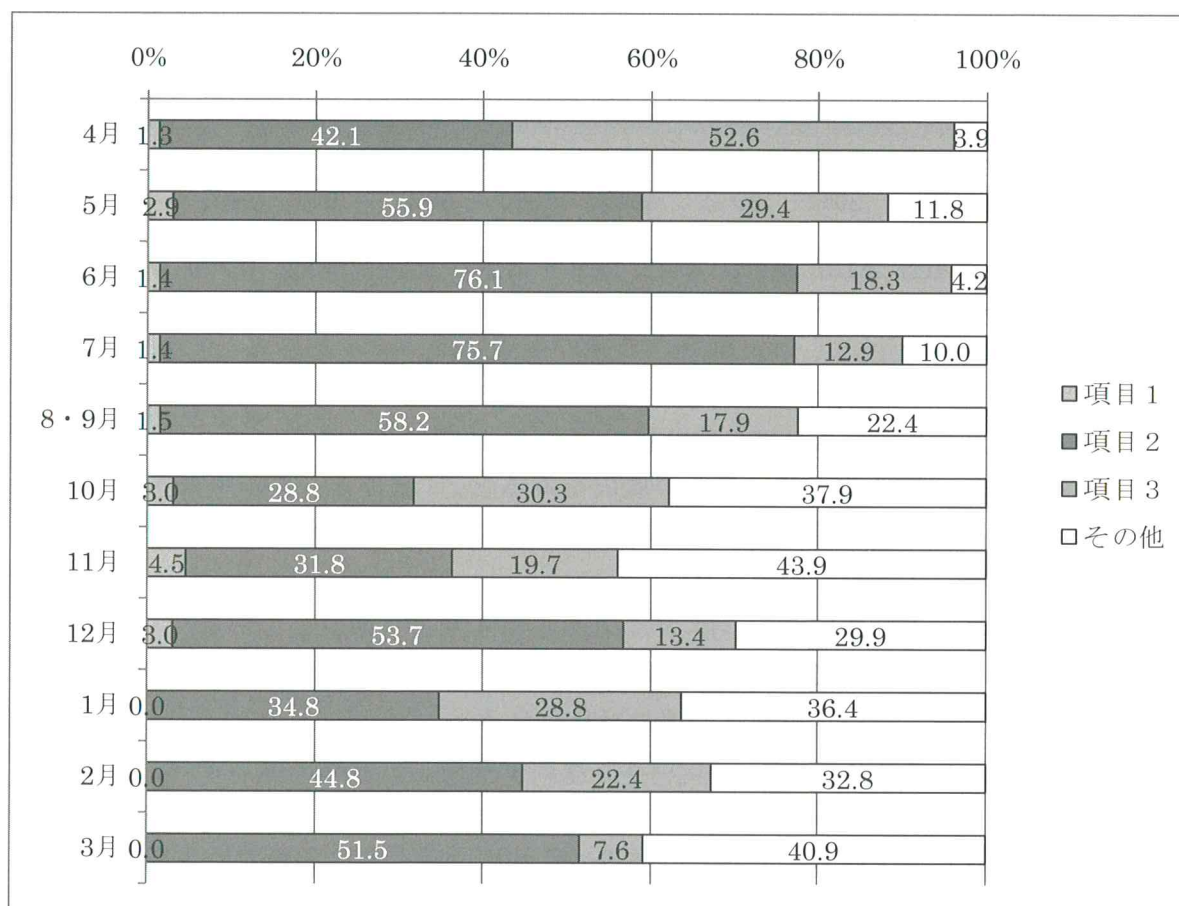


図6 「月ごとの生活目標の調査結果」

次に、月ごとの生活目標について詳細を見てみる。

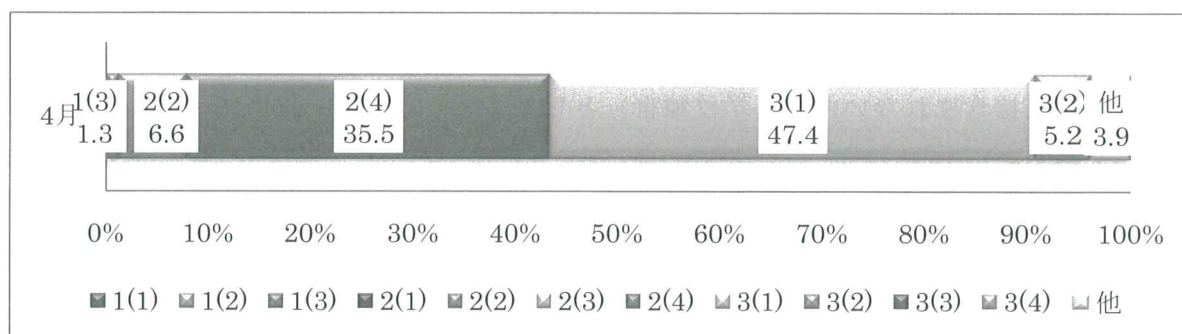


図7 4月の生活目標

図7は、4月の生活目標の集計結果である。「項目2」が42.1%、「項目3」が52.6%となっている。項目ごとの傾向をみると、「項目2（4）規則を守る」が35.5%、「項目3（1）あいさつ」47.4%と高い割合である。

多くの学校では、4月はクラス替えや新担任発表の時期である。学校生活のきまりや基本的な生活習慣などを中心とした「生活のしつけ」の徹底を図り、全校的にそれを共有化しようとする意図があると考えられる。

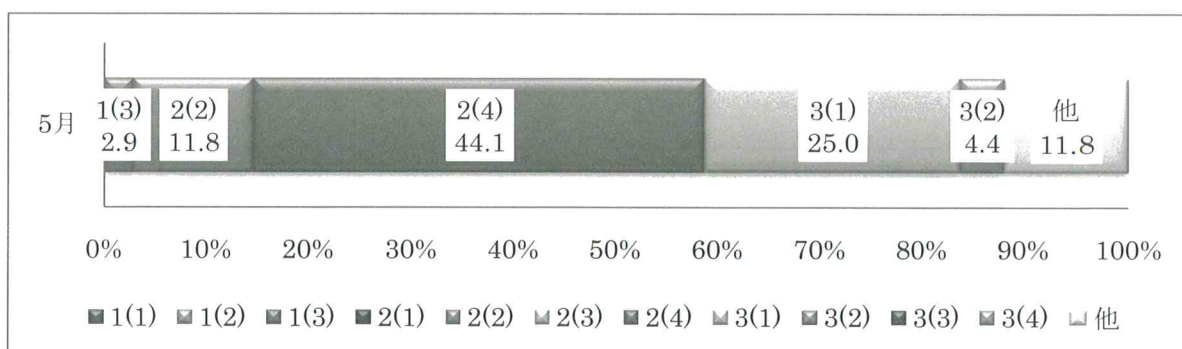


図8 5月の生活目標

図8は、5月の生活目標の集計結果である。「項目2」が55.9%、「項目3」が29.4%となっている。項目ごとの傾向をみると、「項目2（4）規則を守る」が44.1%と4月に引き続き高い割合を示している。また、「項目2（2）時間の尊重」を目標にする割合が増えた。

「項目3（1）あいさつ」は25%であるが4月より減少している。

「友達と仲良くする」「話を最後まで聞く」といった基本的な生活習慣の項目と必ずしも一致しない学校独自の項目が見られる。

「項目2」では4月に多かった「（4）規則を守る」を継続指導しつつ、「（2）時間の尊重」に関する指導に努めていることが分かる。「項目3」では、「（1）あいさつ」の割合が半減し、その分、学級づくりの一環として学級での生活のしつけ的な項目が増えていることが分かる。

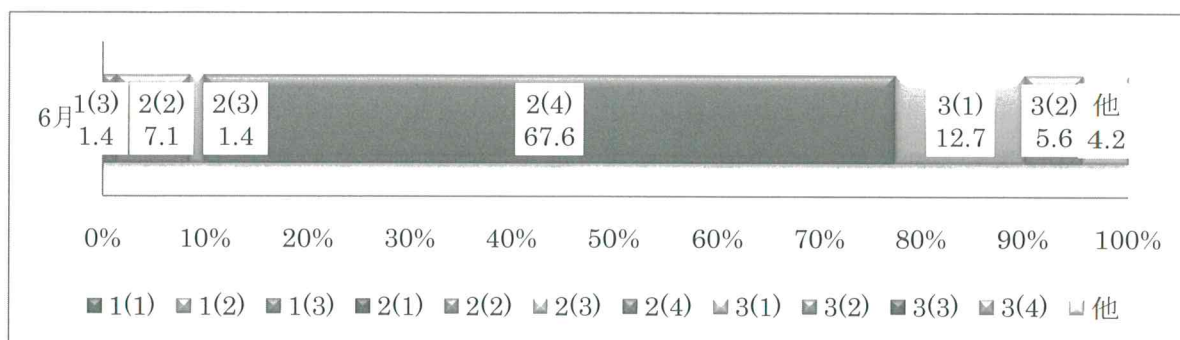


図9 6月の生活目標

図9は、6月の生活目標の集計結果である。「項目2」が76.1%、「項目3」が18.3%である。項目ごとの傾向をみると、「項目2（4）規則を守る」が67.6%と高い割合を示している。守るべき規則の内容は、「廊下歩行」「室内での過ごし方」などとなっている。梅雨の時期、外遊びが難しくなり結果として室内で過ごす時間が多くなるためと考えられる。

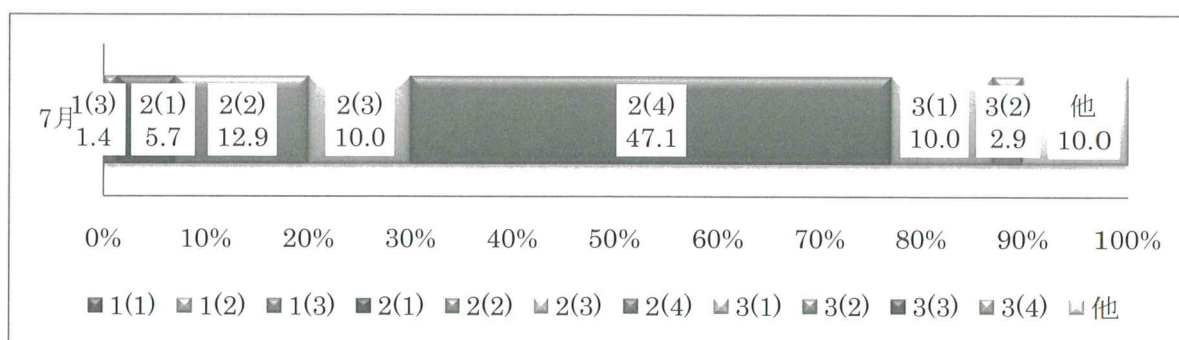


図10 7月の生活目標

図10は、7月の生活目標の集計結果である。「項目2」が75.7%、「項目3」が12.9%となっている。項目ごとの傾向では、「項目2（4）規則を守る」が多いが「項目2（2）時間の尊重、（3）身の回りの整理整とん」が増加している。夏休みを控え、生活リズムを整えとともに、教室の清掃や成績物の整理などそれまでの学校生活を振り返らせようとする意図が感じられる。

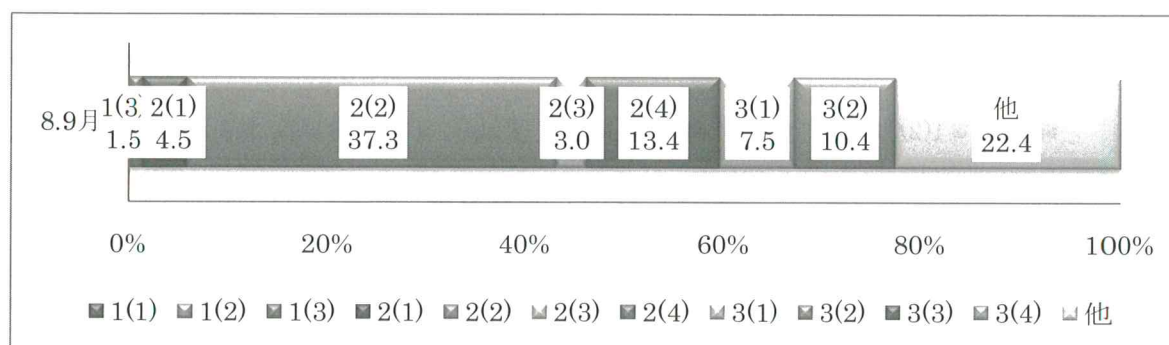


図11 8・9月の生活目標

図 11 は、8・9月の生活目標の集計結果である。「項目2」が58.2%、「項目3」が17.9%、「その他」が22.4%である。項目別の内容では、「項目2（2）時間の尊重」が37.3%と高い割合を示している「項目3（1）あいさつ」が7.5%となっている。また、「その他」として「進んで運動をする」「友達と仲良くする」が取り上げられている。

夏休み中、家庭で乱れがちとなった子どもの生活リズムを学校生活のそれへと戻す意図が感じられる。「あいさつ」や「友達と仲良くする」などの取り上げ方もその延長上にあると思われる。

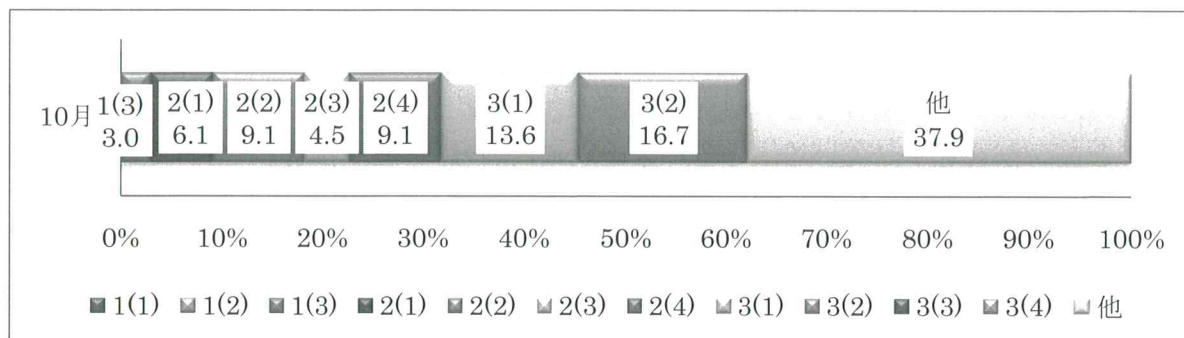


図 12 10月の生活目標

図 12 は、10月の生活目標の集計結果である。「項目2」が28.8%、「項目3」が30.3%、「その他」が37.9%である。項目ごとの内容で特徴的なものは「その他」の中で「進んで運動をする」が高い割合を示している点である。季節的に運動に適している時期であることから多くの学校が生活目標として取り上げていることが考えられる。また、「係活動をしっかりしよう」を取り上げている学校が増えている。先々月まで、高い割合を示していた「項目2（4）規則を守る」を取り上げている学校は減少している。学年も後半に入り、学校生活に落ち着きが出てきていることの現れである。

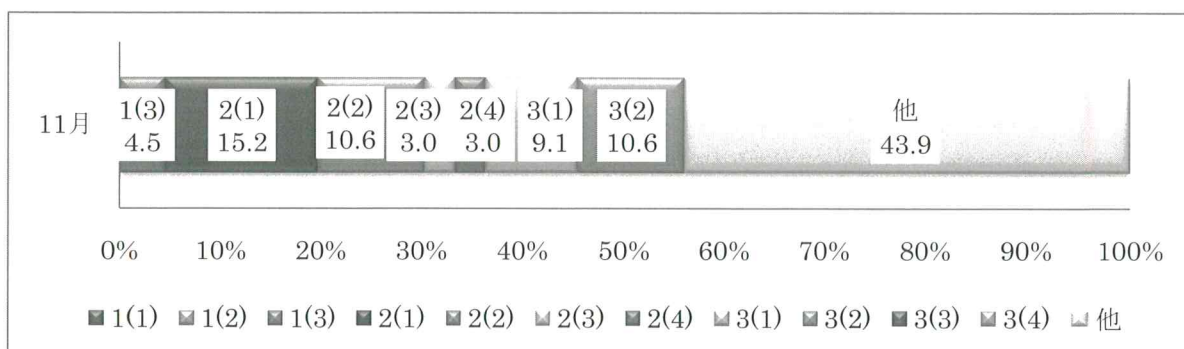


図 13 11月の生活目標

図 13 は、11月の生活目標の集計結果である。「項目2」が31.8%、「項目3」が19.7%、「その他」が43.9%である。項目の内容では、「項目1（3）交通安全及びその他の安全」が4.5%を示している。インフルエンザ流行の時期を迎え、



予防のためのうがい、手洗いの励行などを呼び掛け始めていることがうかがえる。このことは、「その他」のうちで「進んで運動をしよう」が高い割合を示していることと関連していると思われる。

この月の特徴的な目標として「項目2（1）物、金銭の活用及び自他の物の区別」を取り上げている学校が増えている。「その他」の「係活動をしっかりしよう」を取り上げている学校がやや多いことと併せて考えると、学習発表会が多いこの時期を捉え、学校の施設・設備等に目を向けさせるねらいが感じられる。

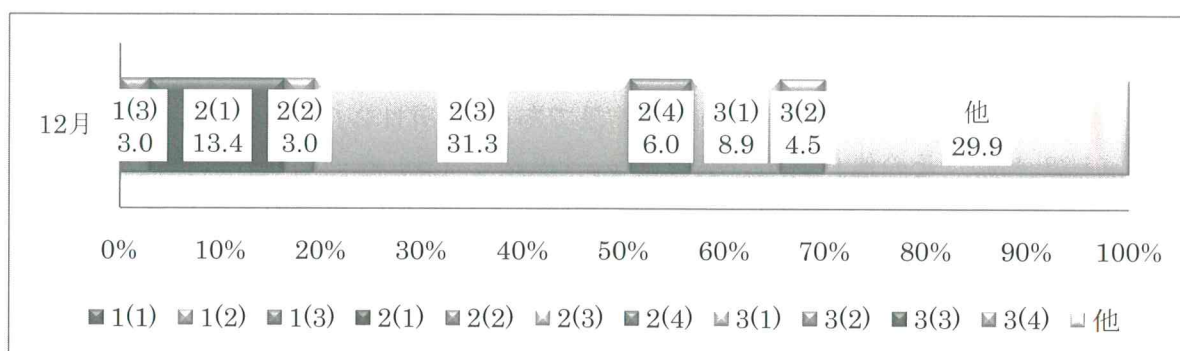


図 14 12月の生活目標

図 14 は、12月の生活目標の集計結果である。「項目2」が 53.7%、「項目3」が 13.4%、「その他」が 29.9%である。項目の内容では、「項目2（3）身の回りの整理整頓」31.3%、「項目2（1）物、金銭の活用及び自他の物の区別」13.4%を示している。年の瀬や冬休みを控え、新しい年を迎える気構えを意識させようとしていることがうかがえる。このことは、「その他」のうち「係活動をしっかりしよう」の項目の割合がやや高いこととも関連していると考えられる。

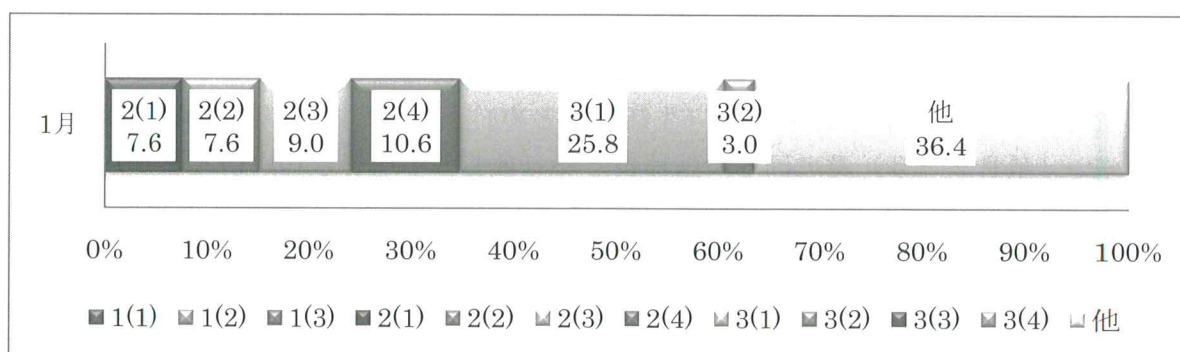


図 15 1月の生活目標

図 15 は、1月の生活目標の集計結果である。「項目2」が 34.8%、「項目3」が 28.8%、「その他」が 36.4%である。この月の特徴的な点としては、「項目3（1）あいさつ」を取り上げている学校の割合が高い。新年を迎え、改めてコミュニケーションの基礎であるあいさつを励行していることがうかがえる。「その他」で「めあてを持つ」の内容を取り上げた学校が多く見られる。これも新年を迎え新たな気持ちで学校生活を送らせたいという願いの表れである。

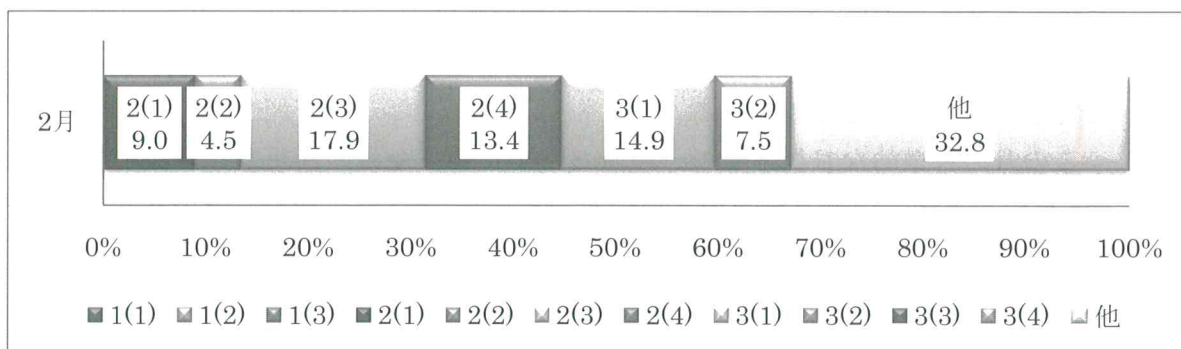


図 16 2月の生活目標

図 16 は、2月の生活目標の集計結果である。「項目 2」が 44.8%、「項目 3」が 22.4%、「その他」が 32.8%である。「項目 2（3）身の回りの整理整とん」が増え始めている。「その他」で「進んでよいことをする」「相手の気持ちを考える」など基本的な生活習慣の内容と必ずしも一致しない学校独自の項目が見られる。

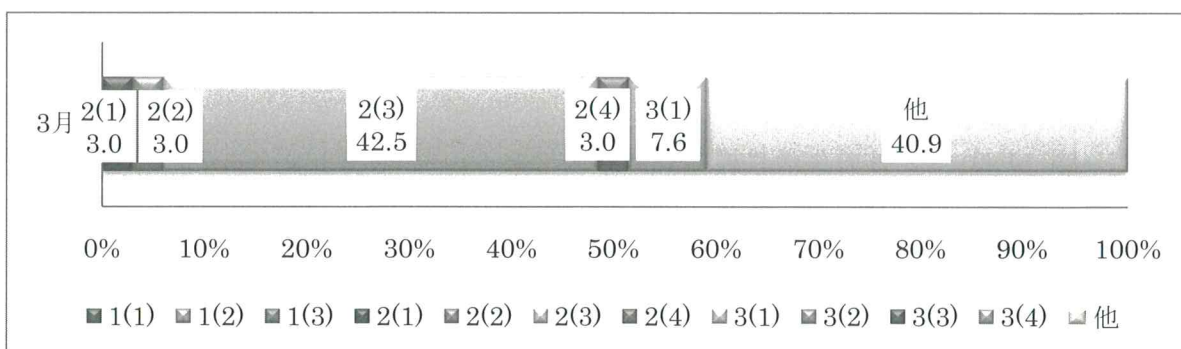


図 17 3月の生活目標

図 17 は、3月の生活目標の集計結果である。「項目 2」が 51.5%、「項目 3」が 7.6%、「その他」が 40.9%である。学年の最後の月ということもあり、「その他」のうち「1年の振り返り」「生活のまとめ」といった内容が特徴的である。また、「項目 2（3）身の回りの整理整とん（教室や学校をきれいにしよう）」が特に高い割合を示している。世話になった「人」や「教室」に感謝するとともに、次年度の学校生活へ意欲を高めさせたいという意図がうかがえる。

#### 4) 生徒指導全体計画への道徳教育の位置付けと道徳教育全体計画への基本的な生活習慣の指導の位置付け

学校生活全般における児童の行動への直接的で具体的な支援（道徳的実践）は「しつけ」として生徒指導を通して行われる。しかし、それは心の在り方・心構えとしての「道徳的実践力」の裏付けがなければ最終的に児童自身に身に付いたものとはならない。基本的な生活習慣の指導は、「常に道徳教育の一環として、価値との関連において考えさせ実践させることが望ましい<sup>13)</sup>」のである。このことを踏まえれば、生徒指導全体計画の中で道徳教育との関連がどのように図られているのか、また、道徳教育全体計画の中では生徒指導がどのように位置付けられて

いるのかが重要になってくる。

そこで、各校における生徒指導全体計画への道徳の位置付けがどのようなになっているのか、また、道徳教育全体計画の中に基本的生活習慣をはじめとする生徒指導が位置付けられているかについて調べてみた。

#### 4) - 1 生徒指導全体計画への道徳の位置付け

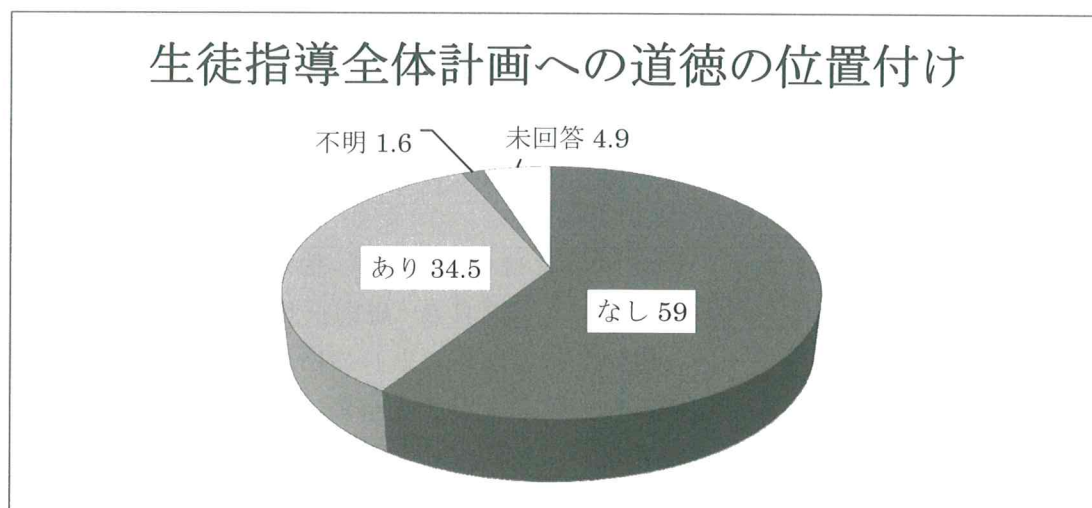


図 18 生徒指導全体計画への道徳の位置付け

各校の生徒指導全体計画に道徳教育を関連させた記述について調べたところ、回答のあったうち過半数を超える 59.0%の学校には、道徳教育と関連する記述はなかった。道徳教育との関連を図っているとする記述が見られる学校は、34.5%にとどまっていた。そのうち生徒指導を進めるにあたって「道徳的価値の内面化を図ったりその指導の場や機会としたりする」「生活目標と道徳的価値との関連を図る」などとしている割合は、約半分である。

#### 4) - 2 道徳教育全体計画への基本的生活習慣の形成に係る指導の位置付け

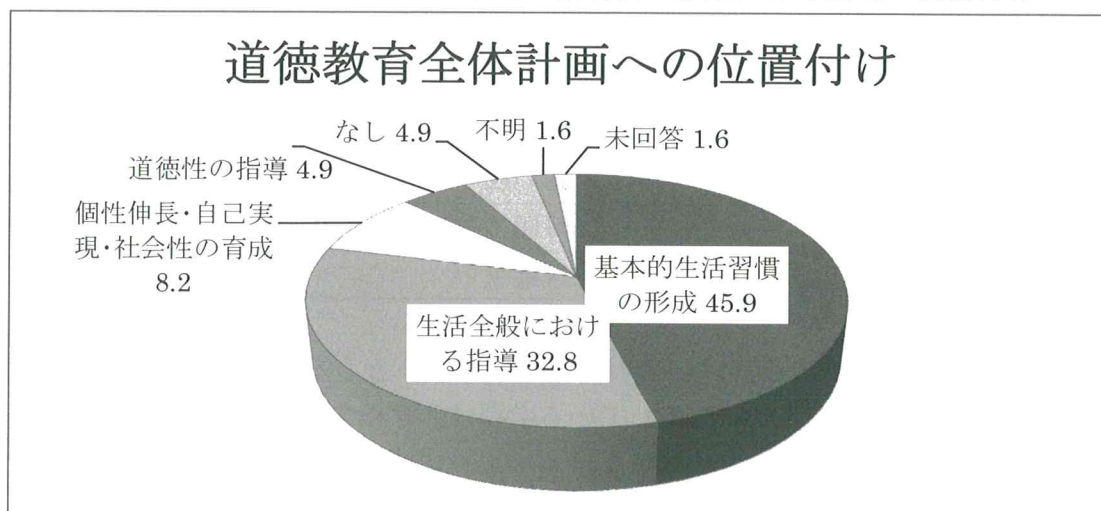


図 19 道徳教育全体計画への基本的生活習慣の形成に係る指導の位置付け



道徳教育全体計画に、基本的生活習慣の形成を含む生徒指導を関連付けている学校は、91.8%となっている。

そのうち「基本的生活習慣の形成・育成」に関する文言のある学校は、全体の約半数近くの45.9%である。「基本的生活習慣」という文言は使っていないものの、「教師と児童、児童相互の心の交流を図りながら、生活全般における指導」を位置付けている学校が32.8%である。「子どものよさや可能性を伸ばしながら、自己実現・個性伸長、社会性の育成を図る」と位置付けている学校が8.2%、生徒指導の場면을道徳性の指導と関連させている学校が4.9%である。

## 5 考察

### 5-1 学校における「基本的生活習慣」に係るアンケート結果と月別生活目標との関係

学校は集団生活の場である。当然、そこには一定の規律、約束事が必要である。

今回の調査研究に回答したどの学校でも「項目2 規則正しく、きまりよい生活に関すること」や「項目3 礼儀作法に関すること」の内容を生活目標として設定し、年間の中で繰り返し指導していることが分かった。これは、子どもの生活規律や生活習慣がかなり低下していることの表れである。

基本的生活習慣に係る教員対象のアンケートで「目の前の子どもの課題」として回答された内容は、以下に示す表5のとおり多い順に「交通及びその他の安全」「規則を守る」「言葉遣い」「あいさつ」「食事の作法」である。いずれも学校生活を送る上で約束事として繰り返し指導していく必要があるものである。しかし、その指導の重要な機会となる月別の生活目標では、多くの学校が「規則を守る」「あいさつ」「身の回りの整理整頓」「時間の尊重」「言葉遣い」の順で取り上げていることが分かった。

表5 教師が子どもの課題としている項目と月別生活の目標で取り上げられている項目

|   | アンケートで回答された、目の前の子どもの課題 | 月別生活目標で取り上げられている内容 |
|---|------------------------|--------------------|
| 1 | 交通及びその他の安全             | 規則を守る              |
| 2 | 規則を守る                  | あいさつ               |
| 3 | 言葉遣い                   | 身の回りの整理整頓          |
| 4 | あいさつ                   | 時間の尊重              |
| 5 | 食事の作法                  | 言葉遣い               |

今回の調査によれば、教員が一番の課題と感じている「交通及びその他の安全」を月別の生活目標として掲げ指導している学校はわずかである。課題と感じているとして5番目に多く回答された「食事の作法」に関して生活目標として設定している学校はまったくなかった。

教員の意識と子どもに示す生活目標の内容とに一部乖離が見られることが明らかである。



「交通及びその他の安全」に関する指導は、学校が登下校も含め子どもにとって安全安心な場所でなければならないことと無関係ではない。もっといえば学校としては何より優先されなければならないものであり繰り返し指導する必要がある項目である。生活目標として取り上げ、子どもの安全に係る習慣形成に向けた指導を行う必要がある。

「食事の作法」を生活目標として取り上げていない理由として、給食週間などの期間に指導している学校があることが予想される。しかし、「朝・昼・夕の3食の習慣」や「間食・ダイエット」「食事全体のバランスと偏食」など健康指導や食育指導が重要であることにかんがみ、それらを生活目標に設定し、繰り返し指導していくことは必要なことである。

#### 5-2 生徒指導全体計画と道徳教育全体教育との関係

生活目標は、一定の型が生活習慣となって生きて働くように指導するためにある。基本的生活習慣を身に付けさせるためには子ども自身が明確な目標をもってそれを具現化するよう取り組む自律的な行動や態度を育成することが重要である。

そのためには、道徳的实践力に基づいた指導が行われる必要がある。この点、9割を超える学校が、道徳教育全体計画に基本的生活習慣の形成を含む生徒指導を位置付けていたことは大いに評価できる。しかし、生徒指導全体計画の中に道徳教育を位置付けていない学校が約6割に上るなど道徳教育と生徒指導との間の指導のつながりがあいまいである。道徳教育の目標が道徳的行為や道徳的習慣といった道徳的实践へ生きて働く要素となることにかんがみ、道徳教育全体計画と生徒指導全体計画相互の関係について再考する必要がある。

### 6 おわりに

#### 6-1 教員の指導について

学校生活における基本的生活習慣を中心とした「生活のしつけ」を徹底させるためには、生徒指導全体計画や月別生活目標などの学校の指導方針を十分に理解したうえで、日常的・継続的・協働的に取り組んでいく体制づくりが求められる。

そのような体制の中、担任である教員は月別生活目標等に表示される基本的生活習慣が、「日常生活において十分身に付いているかどうか、観察や調査などによって一人ひとりの子どもに即して把握し、十分身に付いていない場合は繰り返し指導することが肝要<sup>14)</sup>」である。

その際、教師の叱責等の罰を伴う他律的な指導では、一時的に効果があがったとしても、習慣として形成させることは難しいと思われる。児童自身が、明確な目標をもちその具現のために意欲的に取り組む自律的な行動・態度は基本的生活習慣を身に付けさせるために必須である。

#### 6-2 道徳との関連

平成27年3月27日に道徳の「特別教科」化を含む学習指導要領の一部改正が告示された。

「特別の教科 道徳」では、学習指導要領に「児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」、また、指導上の配慮

事項に「道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること<sup>15)</sup>。」が示されている。

このことは、日常で起こり得る子どもに身近な出来事を例えば模擬体験や表現活動などに落とし込み体験的な活動を効果的にアレンジして、授業における追究活動を進めることが可能であることを示唆している。道徳の授業で、直接的な意味合いでの生徒指導に係る「問題解決」は図れないものの、日常生活を能動的な心の力で振り返る機会とすることが期待される。

新しい教育課程で強調されているカリキュラムマネジメントを踏まえ、「考え、議論する道徳」の授業の展開を含む道徳教育全体指導計画と生徒指導全体計画との関連を一層図ることが重要である。

### 6-3 家庭との連携

今回の調査研究では、家庭との連携については踏み込んでいない。児童に望ましい生活習慣を形成するためには、学校で指導すべきもの、家庭で指導すべきものについてそれぞれが役割を分担し合って置かれた立ち位置によりその責務を果たしていくことが求められる。しかし、それぞれが別個のものではあり得ず「習慣の形成」に関し相互に補完し合うことが一層求められる。

学校としては、家庭教育と連携した新たな取組を進める必要があるだろう。

### 【参考・引用文献】

- 1 野村克也 2005.9 「野村ノート」 p 13～14 小学館
- 2 200.1 中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について ―子どもの最善の利益のために幼児教育を考える― 第4節 子どもの育ちの現状と背景」 文部科学省
- 3 2016.10 2015 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（問題行動調査）」文部科学省
- 4 1985.3 文部省「小学校における基本的生活な習慣の指導」p6
- 5 同上 p 2
- 6 2010.3 「生徒指導提要」 p 142 文部科学省
- 7 同上 p 144 「図表 6 I—5—1 学校段階の取組の視点」 文部科学省
- 8 同上 p 143
- 9 1985.3 文部省「小学校における基本的生活な習慣の指導」p 6～p 12 を基に筆者が作成
- 10 1985.3 文部省「小学校における基本的生活な習慣の指導」p 4
- 11 同上 p 24
- 12 同上 p 5
- 13 同上 p 3
- 14 高階玲治編 2007. 7 「学習のしつけ・生活のしつけ」p 17 教育開発研究所
- 15 2015.3 学習指導要領の一部改正「特別の教科 道徳」 文部科学省

資料－１ アンケート

学校における「基本的生活習慣」に係るアンケート調査

以下の質問につきまして、ご協力をお願いいたします。

質問１ この調査票に記入しているあなた自身のことについて、あてはまる番号に○をつけてください。

① 生徒指導主任                      ② その他（校長，教頭，教務主任等）

質問２ 基本的生活習慣のうち、目の前の児童に習慣として身に付いていないと思われる項目はどれですか？ あてはまるものすべての番号に○を付けてください。

（１）身体や衣服の清潔

（２）洗面，歯磨き

（３）交通安全及びその他の安全

（４）物，金銭の活用及び自他の物の区別

（５）時間の尊重

（６）身の回りの整理整頓

（７）規則を守る

（８）あいさつ

（９）言葉遣い

（１０）食事の作法

（１１）身だしなみ

（１２）その他

|  |
|--|
|  |
|--|

質問３ 児童に基本的生活習慣を身に付けさせる上で、課題であると思われることがあればお知らせください。

|  |
|--|
|  |
|--|



資料—2 記述による回答内容

【生徒指導主任】

- ・ 基本的生活習慣を身に付けることの大切さを感じさせることが難しい児童，大切さは感じているが身に付かない児童がいる。根気強く指導すること，一人一人の課題や家庭などのバックグラウンドに合わせた指導の必要性を感じる。
- ・ 家庭から協力が得られない場合がある。
- ・ 核家族の増加や地域のつながりの希薄化などによる家庭や地域の教育力の低下。発達障害のある児童や疑いのある児童が普通学級に多く在籍するため指導がなかなか通らないこと。
- ・ 学校生活の中だけで身に付けるものではないと考える。しかし，お便りや懇談だけでは協働で取り組むことは困難と感じる。
- ・ 保護者と同一歩調で指導に当たること。全職員が共通理解をもち指導に当たること。地区が津波によって機能していない部分がある。
- ・ 個々の家庭の躰の捉え方が異なっていることもあり，小学校入学期に身に付けておくべき習慣付けがしっかりとされていない児童が増えてきている。
- ・ 家庭
  - ・ 交通安全，自転車，道路歩行
  - ・ 家庭の協力，家庭での教えとの温度差
  - ・ 家庭の意識と教育力の差。校外で誰にでも挨拶を出来ない社会状況。あいさつ指導のマナー化。
  - ・ 家庭と連携することで生活習慣指導が改善していくと思います。
  - ・ 子どもたち自身が家庭で自分の役割を受け持ち，しっかり果たしているのか，大人がやり過ぎていないか等々，疑問を感じることもある。
  - ・ 家庭環境の差が激しい。幼少期，つらい思いをしている子も多く（施設児童）連携を強化しながら進めている。
  - ・ 家庭と連携して指導していくことが一部困難なところがある。
  - ・ 学校と家庭の共通理解や家庭でのあいさつの取組については課題があると感じています。家で日常的に挨拶をしていない子もいるので，学校としてはいろいろな方法で発信していく必要性を感じています。
- ・ 一般常識の多様化
  - ・ 指導をした直後は意識して取り組み効果も見られるが，定着というところまではいかない児童もいる。そのような児童に対してどのような手立てを講じていけばよいのか悩むときがある。
  - ・ 友人や家族など人とのコミュニケーションが減少しているということで，人の話を聞く，人の気持ちを感じるなどの能力が伸びてきていないと感じる。
  - ・ 見通しをもち，自ら考えて行動できるように指導することが難しい。家庭の事情が様々なので，基本的生活習慣に個人差が見られる。子どもの努力では難しい面がある。
  - ・ 児童の実態を保護者と共有すること。保護者のモラルの低下，そもそも指導できない親が多くなっている。
  - ・ 家庭が児童の生活の様子を十分に把握し，家庭の教育力を高める。



- ・家庭との密な連携。具体的には、早寝早起き、スマホ、PC、ゲームの使用時間、あいさつや言葉遣いなどについて保護者へどのように呼びかけていくか。
- ・学校と家庭の取組を連携して行うこと。
- ・家庭の協力を得るのが困難な時もある。
- ・あいさつや言葉遣いなど学校全体で年間目標にして取り組んでいるが、児童一人一人の意識は、まだまだ低い。早寝、早起き、朝ごはんや洗面・歯磨きなど、家庭での習慣によるところが大きいのが、保護者の理解と協力が得られていない。
- ・家庭だと思います。家庭生活の中で培われ身に付けるべきものが、家庭にはすでに失われている。身に付けさせる、親にそういった生活習慣が身に付いていないのではないか。家庭環境の改善、親の教育が必要である。
- ・箸の持ち方がしつけられないまま入学する児童が年々増え、そのため鉛筆を正しく持てない結果、姿勢が悪くなり肩こりの増加等学習効果を下げる原因となっている。保育の定義が小学校でも家庭におけるしつけの補助も行うということが求められる時代になった気がします。
- ・児童に関わっていない家庭の存在。学校と家庭での生活習慣に関する考え方の違い。
- ・家庭環境の違い。例えば、母子や父子家庭でなかなか子供に目が届かない。テレビ、ゲームをいくらやっても注意する人がいない、やられたらやり返せと暴力を容認する親もいる。
- ・学校と家庭が協力して指導していくことが大切だと思う。学校だけで何とか指導しようとしてもうまくいかない。
- ・家庭との連携、協力が不可欠。家庭でのしつけの意識。

#### 【教頭】

- ・基本的生活習慣をしっかり身に付けさせるには学校における指導だけではなく、家庭（保護者）の協力が不可欠である。なかなか協力していただけない家庭に、いかにご理解いただき協力してもらうようにすることが最大の課題である。
- ・時間を守ることを意識しない子、言葉遣いの悪い子にどうしても流されてしまう子がいること。
- ・一部保護者の協力が得られないこと。
- ・教職員の共通認識と共通行動。保護者との連携が難しい事案が増えており、個別の適切な対応の必要性。
- ・家庭環境に差があるため、児童に対して指導しても、効果が上がりにくいケースが多くあること。
- ・家庭の意識改革。
- ・保護者と連携して行わなければならないが、保護者の意識を変えることが難しい。学校だけでは生活習慣を変えることはできない。
- ・家庭との連携。
- ・家庭環境、家庭での親の姿勢がしっかりしていないと身に付かない。親の姿勢を変えるのは大変難しい。お便りなどこまめに出していても目を通さない親もいる。

ふとした不注意が大きな事故につながる。子どもへの安全教育，安全パトロールなど充実したいが，パトロール等のボランティアは高齢の地域の方のみで，PTAも輪番制で巡視しているが多忙で負担が大きいという声が多い。

- ・家庭の生活習慣が乱れているために，児童になかなか身に付かない。
- ・家庭との連携。繰り返し指導すること。子ども自身に問題意識をもたせること。
- ・家庭の指導力の低下。価値観の多様化（学校での常識は世間では非常識。手本となることを学校で指導しても絵にかいた餅）。
- ・家庭との連携。
- ・交通安全等の児童の安全に関することは，保護者の協力や理解を得やすいが，言葉遣いについては，家庭によって温度差があるため，しっかりと身に付けさせることが難しい。

#### 【校長】

- ・社会の価値観が多様化して，学校と家庭との足並みをそろえにくくなってきていること，学校でこのように指導しようと働きかけても，それに疑問を投げ掛ける保護者もいて，そのすり合わせに苦しむことがある。
- ・基本的生活習慣は，個人差，家庭環境差が極めて大きい事柄であり，問題を抱える児童とその家庭に対して，どの程度踏み込み，どのように指導していくかが難しい。
- ・一般論になりますが，基本的生活習慣はいかにして子どもたちへ意識化を図り定着させていくかにかかっていると思います。この意識化⇒定着化を図るためには，学校と家庭がいかに連携をもつかだと思っています。この連携の在り方が課題になるのではないかと思います。
- ・保護者の意識の違いがそのまま子供の意識となっていると感じます。特に，規範意識です。学校のきまり，学校全体で取り組むことについて，そのこと自体に「私としては意味がない」とか「学校以外のことにとやかく言われたくない」と言う保護者もいます。保護者だけが思っていればまだよいのですが，子供にもそのまま伝えるので，担任の話がスムーズに入らないことが多いです。こんな家庭が増えているような気がします。